

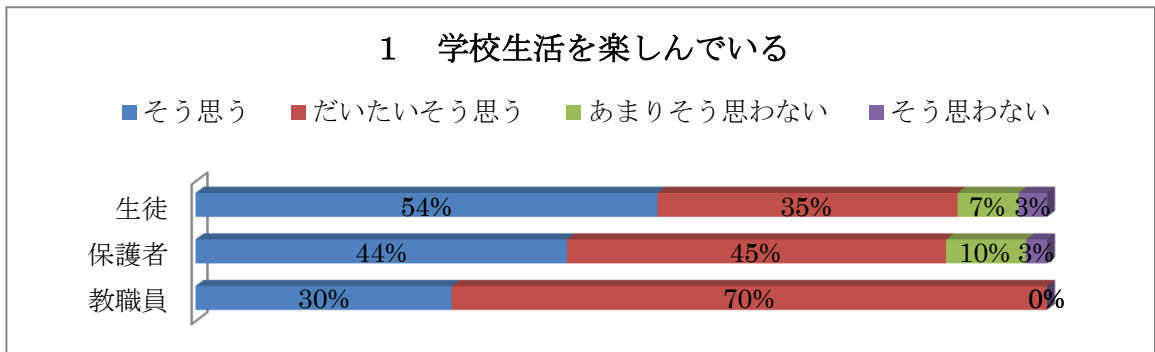
平成29年度後期学校評価アンケートより

1. 分析結果と考察

- ① 設問1の「学校生活は楽しい」では、生徒の89%、保護者の89%が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答している。「あまりそう思わない」「そう思わない」は11%程度と回答し、この結果は前期とほぼ同様である。

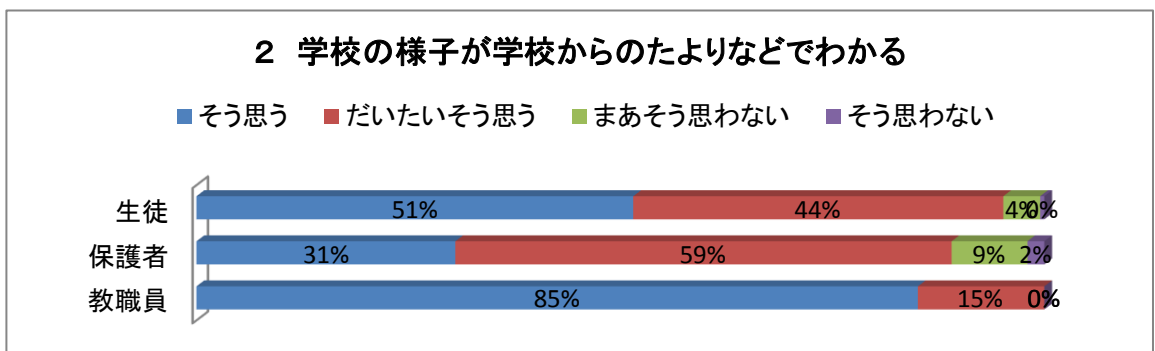
生徒は、授業が分からなくて楽しくないというより、居心地がよくなって楽しくないと回答している。特に、集団における人間関係に起因している。

次年度は学級・学年の規範の徹底、コミュニケーション能力の形成、特別活動の充実を目指し、居心地がよい、楽しい学校づくりをより一層推進していく。



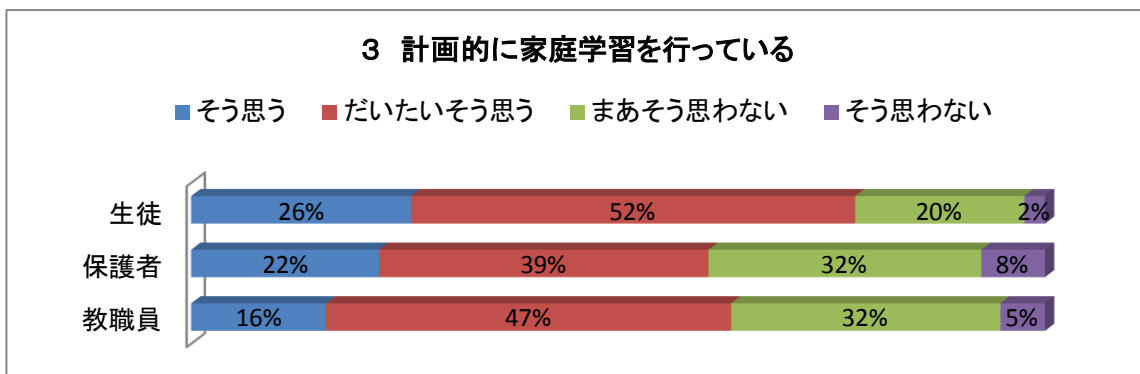
- ② 設問2の「学校の様子为学校からのたよりなどでわかる」では、「そう思う」「だいたいそう思う」の評価が、生徒では95%、保護者では90%、教職員では100%の肯定的な回答であった。この結果は前期とほぼ同様である。

次年度は、たよりを保護者に見せない生徒がいることが考えられるため、引き続き保護者に手渡す等の指導、ホームページ等を閲覧する等のお願いをPTA総会、地区懇談会など行っていく。



- ③ 設問3の「計画的に家庭学習を行っている」では、生徒の「そう思う」「だいたいそう思う」の評価が78%と、多くの生徒が家庭学習に積極的に取り組んでいる。しかし、保護者の評価は61%で、前期よりは上昇したものの、生徒との結果にまだ差が見られた。

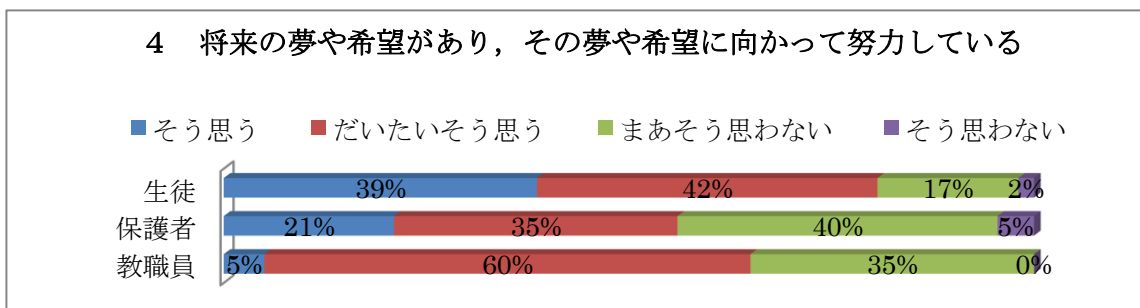
次年度は、二者懇談などで、個々に応じた学習方法等の指導・支援、すみよしの日の奨励等、また地区懇談会等で保護者同士の話し合いの場を設け、家庭と学校が連携した取り組みをさらに推進していく。



- ④ 設問4の「将来の夢や希望があり、その夢や希望に向かって努力している」では、「**そう思う**」「**だいたいそう思う**」が、生徒では81%と高い評価に対して、保護者が56%、教職員が65%という結果で、前期と同様に大きな差が見られた。

生徒の回答の中には、前向きな「まだ夢が決まっていない」などの回答が複数あり、試行錯誤している様子が伺える。

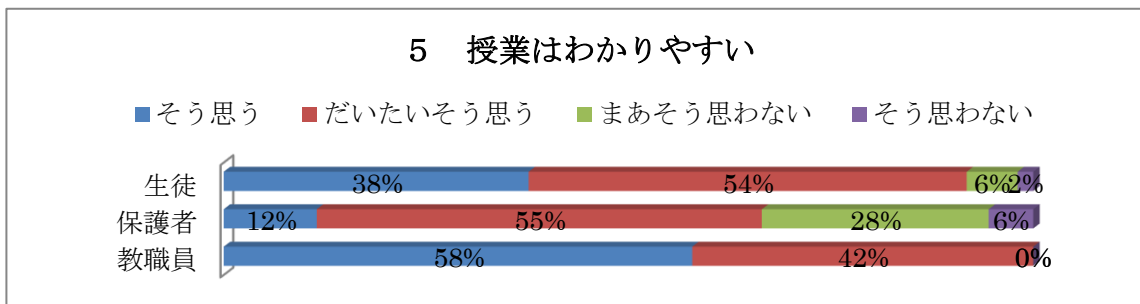
次年度は、キャリア教育の3年間の指導計画を見直し、発達段階に応じた継続的な指導を実施し、夢や希望に向かって努力をする気持ちを粘り強く育てていく。



- ⑤ 設問5の「授業はわかりやすい」という質問に、生徒の92%、教職員の100%が「**そう思う**」「**だいたいそう思う**」という肯定的な回答であった。しかし、保護者は67%で生徒、教職員との差が大きかった。この結果は前期とほぼ同様な結果だった。

保護者からは「学習塾に行かないと勉強が理解できない様だ」「わかっていないのに教えられても理解できない」等、授業改善を望む声があった。一方、生徒からは少人数指導やTT指導を通して「少人数でよかった」「わかるようになってきている」等のきめ細かな指導の成果を上げる声もあった。

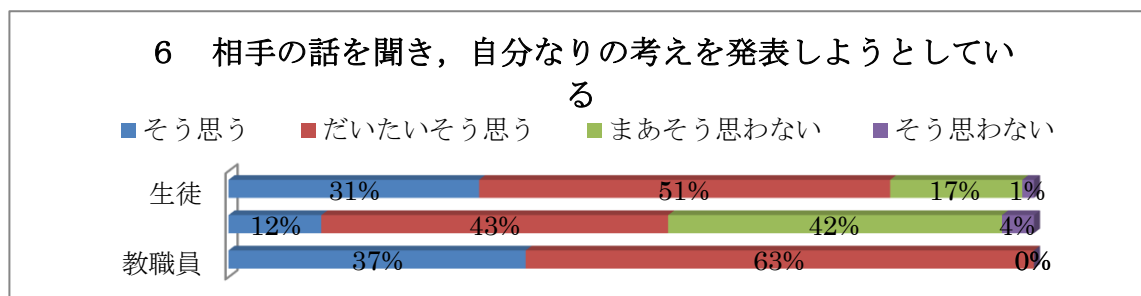
次年度も、きめ細かな指導を推進し、すべての教科でICTを活用した授業づくりを行い、教職員の資質向上にも一層努めていく。



- ⑥ 設問 6 の「相手の話を聞き、自分なりの考えを发表しようとしている」では、「そう思う」「だいたいそう思う」が、生徒は 82%，教職員が 100% であり、前期とほぼ同様な結果であった。一方、保護者は 56% であり、前期より 10% 上昇したが、まだ生徒、教職員との差が大きいままだった。

生徒や教職員が授業等の場で意識的に発表の場面をつくっていることが保護者に徐々に浸透していたことや、保護者に家庭での会話の機会を多くし生徒なりの考えを聞く機会が増えたことで、保護者の結果の上昇につながったと考える。

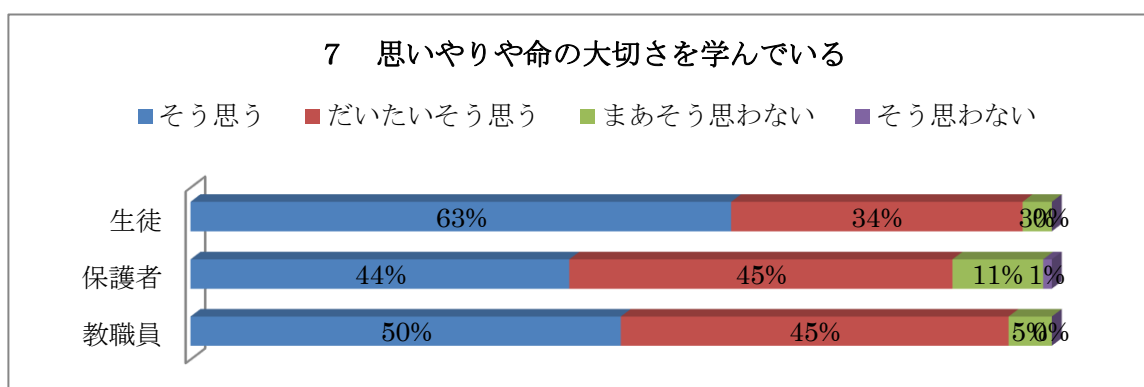
次年度も、授業の中で、自分とは異なる考えを聞いたり発表したりする機会を設定し、生徒の表現力の向上を家庭と連携しながら推進していく。



- ⑦ 設問 7 の「思いやりや命の大切さを学んでいる」では、生徒、保護者、教職員とも 89% 以上の好結果で、前期とほぼ同様な結果だった。

この「思いやりや命の大切さ」ということは、家庭と学校が連携し、継続的に指導をしていくことが大事である。

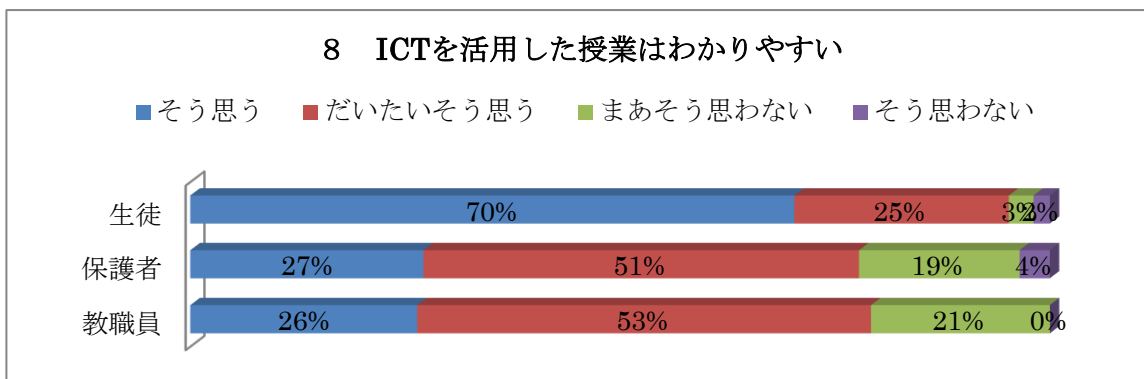
次年度は、道徳の授業参観を実施し、保護者とともに「思いやりや命の尊さ」を考える機会を設定する。また、朝帰りの会での機会を利用し、日々の取り組みにも力を入れていく。



- ⑧ 設問 8 の「ICTを活用した授業はわかりやすい」では、「そう思う」「だいたいそう思う」が、生徒は 95%，保護者は 78% で前期とほぼ同様な結果であった。一方、教職員は 79% で前期より 35% の上昇が見られた。

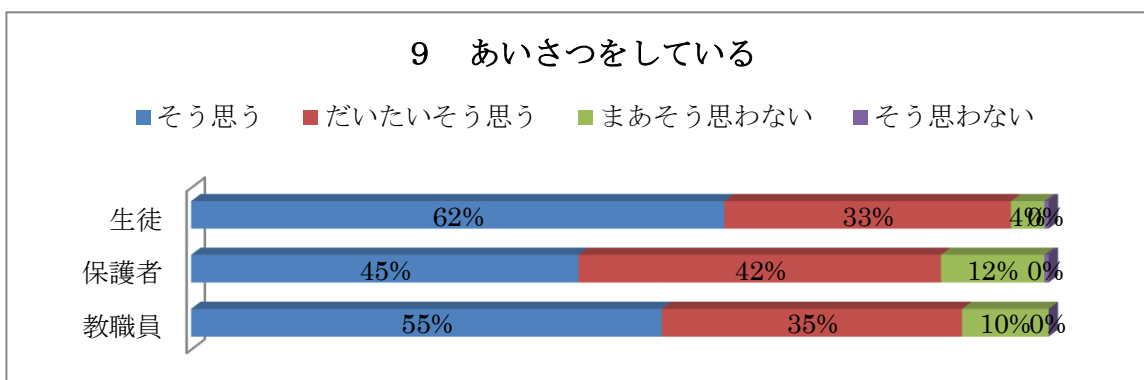
タブレットや電子黒板等を活用した授業を行っている教科は、生徒の評価が高いことから、活用の良さが表れている。しかし、ICTを活用した授業実践を行っていない教科がまだあることや、教職員が ICT を十分に使いこなしていないなどの課題も見られた。

次年度は、教職員の ICT を活用した授業づくりの研修を充実してスキルアップを図り、授業に生かしていく。



⑨ 設問9の「あいさつをしている」では、生徒、保護者、教職員とも87%以上が肯定的な回答をしている。前期とほぼ同様な結果であった。しかし、生徒、保護者、教職員とも、前期より結果が若干低下した。

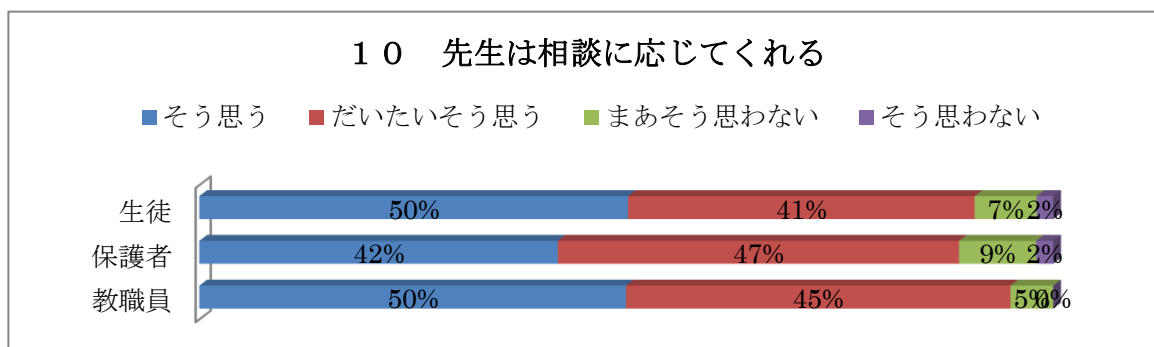
次年度も、生徒会執行部や生活委員会を中心にあいさつ運動に取り組み、気持ちのよいあいさつが誰に対してもできるよう図っていく。



⑩ 設問10の「先生は相談に応じてくれる」では、生徒の91%、保護者の89%が肯定的な回答をした。前期とほぼ同様な結果だった。

しかし、生徒の回答の中には「相談にのってくれない」「忙しすぎて相談できない」という回答もあった。

次年度は、日常の声かけ、生活ノートの活用、二者懇談等の機会を利用し、今まで以上に組織的に相談に応じる体制づくりを行い、相談しやすい環境づくりに全教職員で力を入れていく。

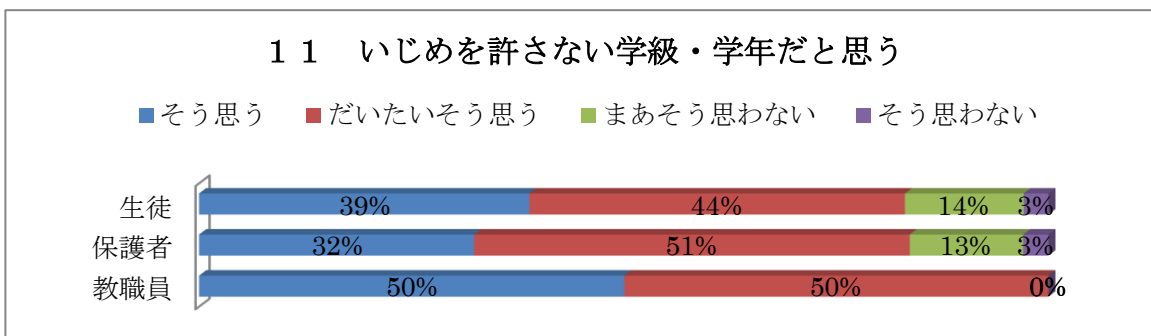


⑪ 設問11の「いじめを許さない学級・学年だと思う」では、「そう思う」「だいたいそう思う」が、生徒は83%、保護者は83%であった。前期に比べ生徒の

評価が4%低下した。

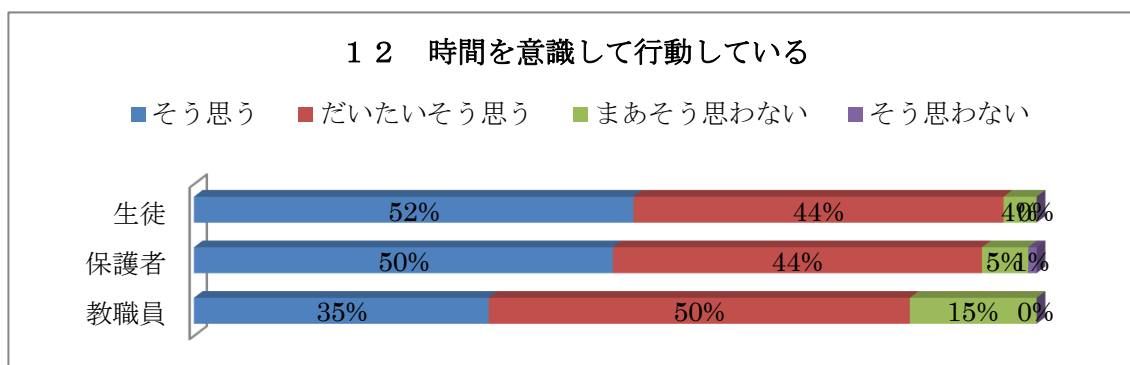
設問①と関連する部分もあるが、「いじめ」は学校生活の根幹にかかわる問題である。この結果をしっかりと受けとめ、全教職員で日々の指導に生かしていく。

次年度は、学級づくりを基盤にし、日常の声かけ、生活ノートの活用、二者懇談等を通して、居心地のよい学級を目指す。万が一、いじめがあり、それを認知した場合は早期対応に努めていく。



- ⑫ 設問12の「時間を意識して行動している」では、「そう思う」「だいたいそう思う」が、生徒は96%、保護者は94%、教職員は85%であった。前期とほぼ同様の結果であった。

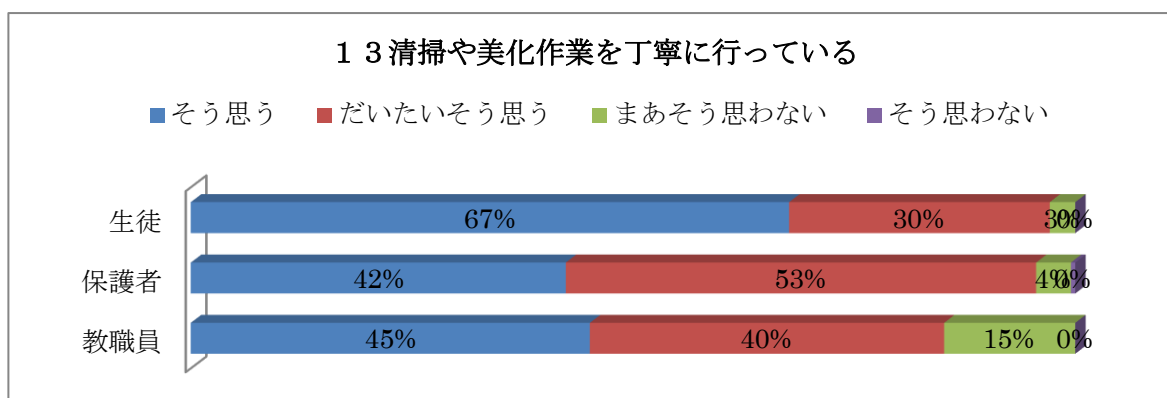
次年度は、「都留一中生4つの規範」の浸透を図り、生徒会生活委員会を中心に、見通しを持った活動を仕組み、自分たちの力で時間を生み出せるように努めていく。



- ⑬ 設問13の「清掃や美化作業を丁寧に行っている」では、「そう思う」「だいたいそう思う」が、生徒の97%、保護者の95%、教職員は85%であった。前期とほぼ同様な結果である。

これも⑫の設問と同様に、大多数の生徒はしっかり行っているが、一部にまだ不十分な生徒がいる。

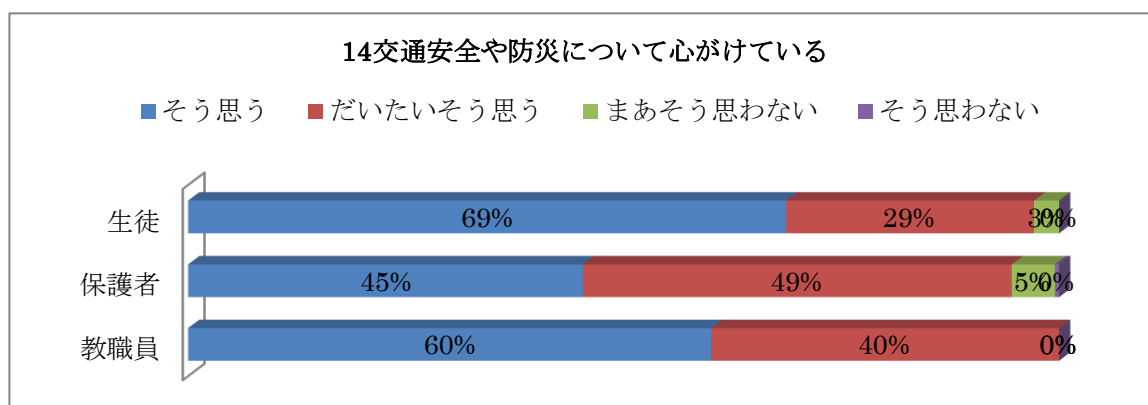
次年度は、「都留一中生4つの規範」を浸透させ、清掃や美化作業に黙々と行なうよう、引き続き指導を続けていく。



- ⑭ 設問14の「交通安全や防災について心がけている」では、「そう思う」「だいたいそう思う」が、生徒の98%、保護者の94%、教職員の100%であった。前期とほぼ同様な結果である。

これまでの交通安全指導や防災避難訓練などを日常的に実施してきた成果だと考える。

次年度も、「自分の命は自分で守る」という高い意識を持たせる指導や、危険箇所やその都度の事例を用いた指導により一層努め、「安全安心」に関する意識の醸成を図っていく。



2. 成果と課題

(成果)

多くの設問で肯定的な回答をいただくことができた。大部分の生徒が真面目に落ち着いた学校生活を送っていることが感じられた。

「家庭学習や夢・希望」の設問から、生徒が自分自身の将来に向けて努力している姿も感じられた。

「発表」の設問から家庭でのご協力もあり、自分の考えを表現する力も徐々に身についてきていることが感じられた。

「ICT」については、生徒の結果よりICTの活用の有効性を確認することができた。「時間・清掃・美化作業」などの日常的な活動にも高い意識で取り組んでいることが感じられた。

(課題)

「学校が楽しくない」と応えた生徒の回答より、「学習がわからない」ことよりも「人間関係が上手にできない」「人間関係がつかれない」ことが、その理由になっている人が多いことがわかった。より良い人間関係づくりができるように相談活動等に力を入れ、身につけさせていく。

「学校の様子や授業、発表」の設問に対して、やや保護者の評価が低かった。改善傾向にあることも感じられたが、まだ十分でない点も多い。前期同様、生徒が家庭で学校のことなどを話していないことが原因であることが予想される。学校からの情報発信に今まで以上に取り組むとともに、家庭でも学校のことを話題としていただけるようにしていきたい。

また、「相談・いじめ」についての評価で「まあそう思わない」という評価が見られた。教職員は100%であり、生徒・保護者と教職員の意識に差があると感じた。生徒の「いじめ」に関する評価の低下も気にかかる。全教職員が危機意識を持って、今後組織的ないじめ防止の体制づくりに取り組んでいく。

「ICT」については、まだICTの活用について教科による差がある。今後さまざまな場面で活用し、「ICT」の良さを生かした授業づくりを行うとともに、教職員一人一人のICT活用力のスキルアップを図り、生徒の学力向上に結びつけていく。